

株式会社西澤電機計器製作所

■平成24年度テーマ

ロービジョン（弱視）患者の“視”生活を快適にする拡大読書器の開発

■平成24年度概要

高齢人口の増大に伴い高齢に起因するロービジョン（弱視）患者が増加している。そこで、これらロービジョン患者の“視”生活をより快適にすることを目的に、従来品に対して視認性・操作性を改善し、読書中の酔いや疲れを低減させた拡大読書器の商品開発をする。

■平成24年度分類

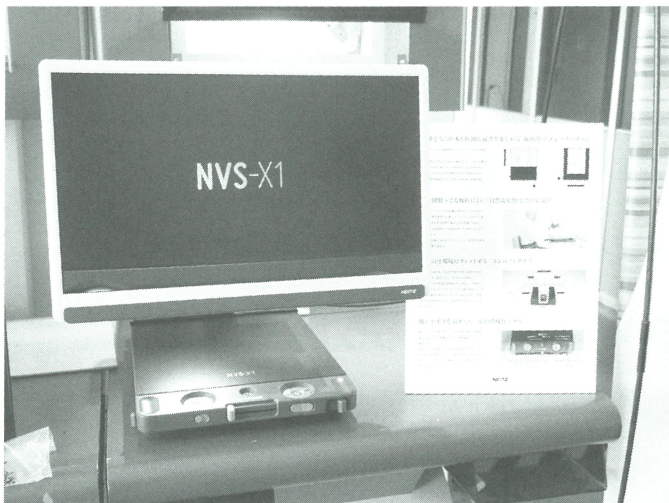
＜事業類型＞ 試作開発＋設備投資

＜競争力強化の形態＞ ニッチ分野特化型

＜22分野技術＞ 動力伝達

■事業の概要と成果

高齢人口の増加に伴い増加しているロービジョン（弱視）患者のための、視覚支援機器である拡大読書器の試作開発を実施した。製品化を見据えた一次、二次試作器を完成し、市場から好評を得ることができた。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて
株式会社西澤電機計器製作所（坂城町）

ビジョンを掲げ積極的に企業買収を展開し、
計測器から医療・福祉機器分野へと事業を拡大。

医療・福祉機器分野をもう一本の柱に

西澤電機計器製作所は創業以来、電気計測器の開発・製造メーカーとして成長。自社で完成品まで一貫生産できる強みを活かし、学校教材用キットテストでは国内トップシェアを誇ります。

同社が岐路に立たされたのは、バブル崩壊後の1990年代後半のことでした。主力の計測器の売上高が半減。それを受けて、創業者である先代社長が新市場開拓に向けてビジョンを宣言します。「少子高齢化の時代、医療・福祉機器分野をもう一本の柱に立てよう」。2000年のことでした。

厳しい状況にあっても着実に開発を進め、05年、自動ページめくり器「ブックタイム」を信州大学などとの産学官連携で開発、発売。いよいよ福祉分野に参入します。これが縁となり、眼科医療機器メーカー「ナイツ」から拡大読書器の事業を譲り受け、10年に同社を子会社化。07年には生体計測機器・発汗計メーカー「スキノス」を買収し、発汗計の開発・製造にも着手しています。

現在、同社の売上げは計測器分野が55%、医療・福祉分野が45%。「2000年の宣言から10年で福祉機器、生体計測機器、医療機器への参入を果たすことができました。薬事法の壁が厚い中、企業買収によって着実に実現できたのが大きかった」。12年1月急逝した父（先代社長）の跡を継いだ西澤孝枝社長はそう振り返ります。

産学官連携で研究開発に力を入れる

同社ではものづくり補助金を活用し、目の不自由な方向けの支援機器である拡大読書器の開発に取り組みました。競合三社は全て輸入商社であり国内生産品は同社が唯一。



拡大読書器

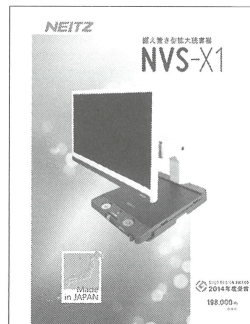


自動ページめくり器「ブックタイム」。経産省「今年のロボット大賞2008」最優秀中小ベンチャー企業賞受賞

「縦書き文章も読みやすく、コンパクトな設計を重視した“日本人のため”の製品づくりを志向した」と開発を担当した技術部の百瀬英哉部長。「縦書き・横書きにスムーズに対応できる可動式テーブルの作り込みと、使いやすいデザインを追求。外部の一流の設計者、デザイナーと一緒に仕事ができ、大いに勉強になりました」。

その成果が実り、同製品は2014年度グッドデザイン賞を受賞。西澤社長は「補助金に採択されたことで背中を押していただきました。それがなかったら、このハードルの高い開発はできなかったと思います」と感慨深げです。

同社では今後、産学官連携も積極的に進めながら研究開発に力を入れ、医療・福祉機器分野で販路を持つ強みを活かした商品づくりを進めていく計画です。



2014年度グッドデザイン賞を受賞



スポットイルミネーター付
サージカルルーペ
(2014年度グッドデザイン賞受賞)



株式会社西澤電機計器製作所

代表者 代表取締役 西澤孝枝
創業 1960（昭和35）年1月
資本金 2,000万円 従業員数 65人
本社 埴科郡坂城町坂城6249

事業内容

TEL.0268-82-2900 FAX.0268-82-1730
電気計測器の研究開発・製造販売、福祉機器の研究開発・製造販売、医療機器の製造販売

